

I 令和4年度 事業計画書

1 内外経済の現況

世界は新型コロナウイルス感染症の世界的流行による未曾有の経済停滞にさらされ数年が経過したが、令和4年4月現在でも終息していない。底堅く推移していた企業収益は、令和2年1～3月期に感染症の影響が顕在化するに伴って大きく減少し、経常利益も製造業、非製造業ともに大幅な減益となった。また、個人消費は、感染症の拡大防止のための外出自粛要請や休業の実施が背景となって急減し、新型コロナ感染症緊急経済対策（特別定額給付金など）が消費を下支える形となった。

ただし、令和3年後半から4年に入ると、感染者は高止まりの状態にあるものの、まん延防止等重点措置が全国的に解除されたことなどを受け、飲食やサービスなど家計関連の景況感は改善に向かっている。感染減少を受けて人的流動は加速化しており、消費は持ち直している。また、産業界においても生産計画は大幅な増産が図られている。

対外経済動向に目を転ずれば、まだ新型コロナウイルス感染症の世界的流行による未曾有の経済停滞の影響はあるものの、世界的な景気回復に伴う需要拡大を背景として、資本財や電子部品の輸出が堅調に推移している。ただし、自動車など一部の産業が中国・上海での都市封鎖の影響で減産を余儀なくされており、またロシア・ウクライナ紛争を背景とした需給ギャップが品不足、価格高騰をもたらしつつあることから、今後の世界景気への影響が懸念されている。

また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う国境を越えた人的流動の制限は今も続いており、インバウンド需要はほぼゼロとなっている。このことから、感染症の拡大以降、インターネットを介したEコマースの有用性が改めて認識され、真珠を含む宝飾品業界においても例外ではない。真珠業界としても、Eコマースへの対応方法について検討する時期に来ている。

2 真珠業界の取り組み

我が国の養殖真珠は、香港を販売拠点として、香港ジュエリーショーを中心に販売活動が行われていることに今も変わりはない。また、海外バイヤーの日本産アコヤ真珠への関心は依然として高いものがあり、日本産アコヤ真珠の「品質の良さ」や「品質への信頼」が再認識されている。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の世界的流行によって各国がとった入国制限と渡航自粛勧告で国境を超えた人の移動はなくなり、香港での国際展示会の開催は困難を極めている。それに加えて香港での政情混乱は、香港での国際展示会開催を危うくしている。2021年に開催予定の展示会はいずれも中止となり、見通しが立ちにくい状況は昨年と同様である。中国で新型コロナウイルス感染症の抑え込みが成功して経済活動に好転の兆しが見えたとしても、香港での展示会を経由しないで中国バイヤーに品質の良い真珠を安定して供給できるルートが整っていないのが現状であり、対中国輸出については取引環境の整備が現在でも課題となっている。

マーケットの動向がこのような状況にあればこそ「安心、安定、信頼」をモットーとして「品質の向上」「イメージアップにつながるPR」「イメージダウンを避ける施策」を生産者、流通業者一体となって取り組むことがますます重要になると思われ、これを将来の生産発展につなげてゆくことが大切であると考えます。

日本真珠振興会としてはこれらの点を重視して、今後とも生産技術の向上のために、様々な支援を実施するとともに、国内市場に向けては消費者に正しく真珠を理解してもらえるようにするための努力や、世界に向けては、日本産品の積極的な広報活動をしてゆくことが必要と考えている。このことを目標に据えて、真珠振興法発布以降、水産庁補助事業をいただくことで業界が一体となった取り組みを推進している。この事業では、「真珠産業連携強化協議会」並びに「生産開発部会」、

「販売・マーケティング部会」、「輸出拡大戦略部会」の3部会を設置して、今年度も行動計画に則って真珠産業の課題解決に向けて取り組む。また、今年度から農林水産省「農林水産物・食品輸出促進対策事業」における品目団体指定を受け、我が国の真珠産業が高い国際競争力を獲得・維持すべく様々な事業に尽力する所存である。そして、内外経済の現況及び真珠業界の置かれた状況を踏まえて、今後の真珠業界の再生と振興のため、以下の事業活動を実施していくこととする。

3 重点目標

上記1及び2に述べた情勢の下、我が国の真珠産業の維持・発展を目指して、本年度の重点目標を以下のとおり定め、事業活動を実施するものとする。なお、事業実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症の蔓延状況等から判断するものとする。

(1) 実施事業等会計

① 市場開拓及び需要拡大等支援事業

ア 展示会等への出展による市場開拓・需要拡大事業

東京、神戸で開催される国内の国際宝飾展において、パネル展示やDVDの放映による日本産アコヤ真珠のPR、真珠検定の説明相談会、高品質日本産アコヤ真珠の展示及び小冊子等の配布を行う。

また、海外バイヤーに向けて、リアルだけでなくオンラインも含め、宝飾展において、真珠のすばらしさをPRし、日本の真珠への理解を深める。

また、審議の上、団体等が実施する宝飾展の出展を支援する。

イ 地域活性化事業

各地区で行われる真珠に関するイベント等の協賛やPR活動への支援を審議の上、行う。

② 品質向上及び供給安定化等支援事業

ア 品質向上事業

・ 品評会関連

全国真珠養殖漁業協同組合連合会と共同で、全国真珠品評会、全国花珠真珠品評会を開催する。また、各地域で行われる品評会についても審議の上、支援する。

・ 養殖技術向上関連

変動の激しい自然環境の中で生産するアコヤ真珠の品質向上を図るために、審議の上、各団体等の事業に支援する。

・ 新技術・新基準関連

各団体等の新技術に対する取組に、審議の上、支援する。

また、真珠の生産が国際的に広がる中で発生する各種の問題に対処するため委員会を開催し、必要に応じて国際会議等に専門家を派遣する。

(2) その他会計

① 真珠検定事業

曖昧だった真珠に関する価値基準や諸説を整理し、真珠の美しさをより多くの人々に伝えることを目的として、今年度も真珠検定事業を実施する。令和4年度は(1)有資格者の能動化、(2)販売員の資格取得者の増加、(3)一般消費者への真珠興味喚起、(4)BtoCオンライン商談会、(5)中国語版真珠検定講座開始に取り組む、普及に務める。

② 普及啓発事業

日本の特産品である真珠の持つ多面的な価値を広く普及・啓発するために、一般消費者からの質問、相談に積極的に対応するとともに、雑誌の有する普及啓発効果を再認識して、特別企画の掲載や新聞等のメディアによる広報宣伝、ホームページやSNSの活用、マーケティング事業等々、幅広く実施する。また、一般社団法人日本ジュエリー協会との間で「真珠連絡会」を組織し、連携して市場調査、販売促進、教育・育成、消費者対策等を進める。

③ 真珠産業海外展開強化事業

この事業は、真珠振興法の成立を受けて、平成29年度に国の新規事業として予算化された「真珠養殖業等連携強化・成長展開事業」、平成31年度・令和元年度から開始された「日本真珠国際競争力強化推進事業」に続いて、令和4年度から開始される後継事業である。ここでは、前事業が推進してきた真珠の生産から市場・流通・販売に至る各層が連携を強化する理念を継承する。

また、引き続き「真珠産業連携強化協議会」、専門部会として「生産開発部会」、「販売・マーケティング部会」、「輸出拡大戦略部会」を設置して、前事業において立案した行動計画に則り、真珠産業の振興を図っていくものとする。また、行動計画の検討に必要な資料収集・分析、データベース化等を行うとともに、真珠養殖業等の次世代を担う人材グループを認定し、その活動に要する経費を助成していく事業を引き続き実施していく。事業の実施にあたっては、国の定額予算に自己負担を加算することにより、引き続き我が国真珠産業の国際競争力の強化を図るものとし、高い優先度をもって取り組む。

④ 農林水産物・食品輸出促進対策事業（輸出強化支援事業）

この事業は、農林水産省が令和10年度に農林水産物・食品の輸出額を四兆円に増やすべく取り組むものであり、真珠は重点24品目の1つに指定された。それを受けて、真珠振興会では真珠産業連携強化協議会の中に「輸出拡大戦略部会」を設置し、推進強化を図ることとしている。

令和4年度は、事業として「中国及びアメリカの真珠に係る消費者動向調査」、「安定したオンライン商談に不可欠な撮影拠点の整備」、「中国バイヤー等を対象としたオンライン商談会の開催」、「生残率が高く品質の良い真珠を作るアコヤ母貝養殖の実証試験」、など7事業を実施し、日本のアコヤ真珠の国際競争力向上、輸出増大に寄与する。

(3) 法人会計

総会及び理事会において、振興会の活動について活発な審議・検討を行い、振興会の重要事項の決定を行うとともに、振興会の事業と活動の全般にわたり、積極的な対応を行うための各種振興対策を推進するために「真珠振興議員連盟」との連携強化を図る。

会員相互の意思疎通を図り、定款の目的に沿って真珠業界全般のために振興会の運営と事業活動の円滑な推進を図る。